様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	産業能率大学
設置者名	学校法人産業能率大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経営	経営	夜・通信	—	12	2	14	13	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	夜・通信			4	16	13	
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	夜・通信		2	12	14	13	
	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	夜・通信		—	14	14	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/file/2025_RK_daigakujitsumukeien.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	産業能率大学
設置者名	学校法人産業能率大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/officerlist.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025.6.24～ 2027.6.23	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	株式会社役員	2025.6.24～ 2027.6.23	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	産業能率大学
設置者名	学校法人産業能率大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） （授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ＜通学課程＞ 【授業計画書（シラバス）の作成過程】 すべての授業科目について統一した書式の詳細な授業計画書（シラバス）を作成している。授業計画書（シラバス）は、「授業の概要」にあわせて実務経験のある教員等による授業科目のみ「担当教員の実務経験」と「実務経験に基づく項目」を設けている。また、「この科目の到達目標」などの項目から構成しており、各担当教員に作成の依頼をしている。各担当教員が作成した授業計画書（シラバス）を事務職員や学部の教学委員会等で確認し調整したうえで内容を確定している。複数の担当者で行う授業も、科目主務者を定め、授業計画書（シラバス）に基づいて同一の内容・方法で実施している。 【授業計画の作成・公表時期】 次年度の授業計画書（シラバス）の作成は、次年度が始まる 3 ヶ月前の 1 月から作成している。 公表に関しては、新年度になる 4 月に大学のホームページに掲載し、公表をしている。 ＜通信教育課程＞ 【授業計画書（シラバス）の作成過程】 授業計画書（シラバス）は、「授業の目的と概要」「担当教員の実務経験等」「この科目の到達目標」などの項目から構成しており、通信教育教学委員会による授業計画書（シラバス）点検結果および科目別教員ミーティングでの検討結果を反映させ、各担当教員が作成した授業計画書（シラバス）を事務職員が確認したうえで内容を確定している。 【授業計画の作成・公表時期】 次年度の授業計画書（シラバス）の作成は、次年度が始まる 6 ヶ月前の 10 月から作成している。公表に関しては、年度末に大学のホームページに掲載し、公表をしている。

授業計画書の公表方法	ホームページによる公表 ＜通学課程＞ https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/subjects/kamok01.html https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/subjects/kamok06.html https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/subjects/kamoku02.html ＜通信教育課程＞ https://www.sanno.ac.jp/tukyo/learn/university/syllabus_d.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） （授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） ＜通学課程＞ 【単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】 授業計画書（シラバス）に記載された成績評価方法に基づいて適正に評価して単位の付与、履修を認定している。 成績評価方法として、授業出席、授業外学習、小テスト、提出課題等の評価項目から成績評価を行い、この成績評価方法は授業計画書（シラバス）に記載し、学生に明示している。 ＜通信教育課程＞ 【単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】 授業計画書(シラバス)に記載された成績評価方法に基づいて適正に評価して単位の付与、履修を認定している。 《通信授業》 成績評価方法として、リポート課題を提出し、60 点以上であれば科目修得試験を受験することができ、その科目修得試験が 60 点以上であれば合格となる成績評価を行っている。なお、この成績評価方法を授業計画書(シラバス)に記載し、学生に明示している。 《スクーリング》 成績評価方法として、講義途中で理解確認のための試験またはレポートを実施する「授業に取り組む姿勢」と講義内容の理解の確認として実施する「最終試験」の２つの評価項目から成績評価を行っている。なお、この成績評価方法を授業計画書(シラバス)に記載し、学生に明示している。 《メディア授業》 成績評価方法として、授業各回の講義動画視聴等の学修の後に最終試験を受験することができ、この最終試験が 60 点以上であれば合格となる成績評価を行っている。なお、この成績評価方法を授業計画書(シラバス)に記載し、学生に明示している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） ＜通学課程＞ 【ＧＰＡ等の客観的な指標の具体的な内容】 成績評価基準として GPA 制度を導入している。各学期に履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を各学期の成績評価された単位数の合計で除している。 ＜各評価のグレードポイント＞Ｓ＝５，Ａ＝４，Ｂ＝３，Ｃ＝２，Ｄ＝１，Ｆ＝０ ＜計算式＞ＧＰＡ＝（単位数×グレードポイント）の和÷評価済単位数 【客観的な指標の適切な実施】 GPA 制度に基づき履修指導を行っている。また、入学時からの通算の GPA が 1.5 以上であることを進級・卒業要件としている。学期の GPA が 1.5 未満または修得単位 10 単位以下となった学生に対しては、指定期間に本人及び保証人(保護者等)との面談・指導を行う。 ＜通信教育課程＞ 【ＧＰＡ等の客観的な指標の具体的な内容】 通信教育課程では成績評価基準として GPA（Grade Point Average）制度を導入している。科目修得試験や面接授業（スクーリング）などにより評価が確定した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を対象科目の単位数の合計で除している。 ＜各評価のグレードポイント＞Ｓ＝４，Ａ＝３，Ｂ＝２，Ｃ＝１，Ｆ＝０ ＜計算式＞ＧＰＡ＝（単位数×グレードポイント）の和÷評価済単位数 【客観的な指標の適切な実施】 GPA の客観的な指標を適切に活用し、成績評価を実施している。また、学生が iNetCampus（在学生ポータルサイト）で成績を確認できる「学修状況連絡表」や「成績証明書」に GPA を表示している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページによる公表 ＜通学課程＞ （GPA 制度） https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/gpa.html （成績評価の算出方法） https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/schoolgrades.html ＜通信教育課程＞ （GPA 制度） https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/gpa.html （成績評価の算出方法） https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/schoolgrades.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ＜通学課程・通信教育課程＞ 【卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の具体的な内容】 本学は卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を学部・学科ごとに定めている。学部・学科ごとに定めた卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）には到達目標がそれぞれ掲げられており、その到達目標には５つの項目（①知識・理解②思考・判断③関心・意欲④技能・表現⑤態度）を設けている。学生には卒業するまでに身につけてほしい能力レベル、意識レベルとして当該項目を定めている。 【卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の適切な実施状況】 卒業認定に際して、学生は以下の要件を満たしていることが必要である。 ① 授業計画書（シラバス）記載の到達目標で定めている能力レベル、意識レベルが到達していること。 ② 本学が定めている卒業までに必要な卒業要件単位数を通学課程では 128 単位、かつ入学時からの通算の GPA が 1.5 以上であること。また、通信教育課程では 124 単位を修得していること。 卒業判定の手順については、上記の要件を満たす学生について教授会において意見を徴し、最終的に学長が決定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページによる公表 ＜通学課程・通信教育課程＞ https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/baim.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	産業能率大学
設置者名	学校法人産業能率大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/finance.html
収支計算書又は損益計算書	ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/finance.html
財産目録	ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/finance.html
事業報告書	ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/finance.html
監事による監査報告（書）	ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/admin/finance/finance.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページによる公表
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/compliance/self_evaluation.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページによる公表
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/compliance/evaluation.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　経営学部　（経営学科、マーケティング学科）
教育研究上の目的（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/purpose.html）
（概要） ［経営学科］ 経営に関する知識とスキルを修得し、社会において活躍するビジネスパーソンを育成する。 ［マーケティング学科］ マーケティングに関する知識とスキルを修得し、社会において活躍するビジネスパーソンを育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/baim.html）
（概要） 【学位授与方針】 経営学部の各学科の教育課程を学修して、各学科が定める到達目標を達成し、卒業に必要な修得単位の要件を満たす学生に、学士（経営学）の学位を授与する。 ※［経営学科］［マーケティング学科］の卒業の認定に関する方針は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/baim.html）
（概要） 経営学部経営学科、マーケティング学科では、学位授与方針に定める到達目標を達成し、経営、マーケティングに関する知識とスキルを修得し、社会において活躍するビジネスパーソンを育成するために、次のような方針に沿って教育課程を編成し、能動的学習を重視して実施する。 1. 学位授与方針の到達目標を達成するため、体系的・順次性のある教育課程を編成する。 2. 学位授与方針の到達目標と関連づけながら、授業科目区分、授業科目、授業方法・形態、授業科目の到達目標及び学修内容を定める。 3. 学位授与方針の到達目標を達成できるよう、卒業に必要な単位について授業科目区分ごとに必修、選択を適切に定める。 4. シラバスを通じて、各授業科目の到達目標、学修内容、学位授与方針の到達目標との関連（評価の観点）、成績評価の方法、事前・事後学習の内容などを周知する。 5. 単位制度を実質化し、各授業科目の到達目標を実現するため、授業時に事前・事後の課題を明示し、学習指導を行う。 6. シラバス点検及び授業評価を通じて、各授業科目の点検・評価を行い、教育内容・方法の改善に努める。 7. 授業科目ごとに定められた成績評価の方法に基づき、厳格な成績評価が行われているかどうかの点検・評価を行う。 8. ＦＤ・ＳＤ活動を通じ教職員間の共通理解を形成する。 ※［経営学科］［マーケティング学科］に関する授業科目区分ごとの学修内容と能力開発の目標は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/admissionpolicy/ba.html）
（概要） 【学士課程で培う能力と求める学生像】 産業能率大学では、マネジメントに関する知識とスキルを、実践の場で活用することで、社会において活躍できる人材の育成を目指すとともに、自己の将来キャリアを設計し、その達成のために意欲的に困難に立ち向かう力を培います。 上記の能力向上のために、本学では、教養科目を広く学ぶことで政治・経済・文化等の社会の動きを掴み、専門教育として、経営理論科目と実践科目を相互補完的に学ぶことで、実践力（課題発見、分析、実行、評価、振り返り）を修得します。 そのために、入学希望者には、次の資質を求めます。 ・経営学部で学んだ知識とスキルを実践の場に応用する意欲を有している ・高等学校段階における基礎的な学習内容を理解している ・グローバル化している社会の動きに高い関心を持っている ・自分の将来キャリアを真剣に考え、常に向上心を持っている ・主体的に課題を発見し、他者と協働して取り組むことができる 【入学者選抜の基本方針】 産業能率大学では、求める学生像との適合度をはかるために、多様な入試制度を展開しています。すべての入試に共通するのは、高等学校段階までの学習課程における基礎的な知識を修得していることがあげられます。また、学校行事、部活動等に対し主体的かつ意欲的に取り組んでいることを基本としています。なお、２０２３年度総合型選抜に新たに「MI（マーケティング・イニシアティブ）方式」を導入し、課題発見力・課題解決力を問う選抜を実施しました。また、2025 年度入学者選抜において は、入学者受け入れ方針について WEB サイトに加え、オープンキャンパスでのガイダンスや選抜要項を通じて周知を図っています。さらに一般選抜では、旧学習指導要領を履修した志願者にも配慮した出題を行いました。 ※［経営学科］［マーケティング学科］の入学者の受入れに関する方針は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。

学部等名　情報マネジメント学部　（現代マネジメント学科）
教育研究上の目的（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/purpose.html）
（概要） ［現代マネジメント学科］ マネジメント力を発揮して社会の様々な分野において活躍する人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/baim.html）

（概要）
【学位授与方針】
情報マネジメント学部の教育課程を学修して、学科（通学課程）が定める到達目標を達成し、卒業に必要な修得単位の要件を満たす学生に、学士（マネジメント）の学位を授与する。
※［現代マネジメント学科］の卒業の認定に関する方針は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/baim.html）

（概要）
情報マネジメント学部現代マネジメント学科では、学位授与方針に定める到達目標を達成し、マネジメント力を発揮して社会の様々な分野において活躍する人材を育成するために、次のような方針に沿って教育課程を編成し、能動的学習を重視して実施する。
1. 学位授与方針の到達目標を達成するため、体系的・順次性のある教育課程を編成する。
2. 学位授与方針の到達目標と関連づけながら、授業科目区分、授業科目、授業方法・形態、授業科目の到達目標及び学修内容を定める。
3. 学位授与方針の到達目標を達成できるよう、卒業に必要な単位について授業科目区分ごとに必修、選択を適切に定める。
4. シラバスを通じて、各授業科目の到達目標、学修内容、学位授与方針の到達目標との関連（評価の観点）、成績評価の方法、事前・事後学習の内容などを周知する。
5. 単位制度を実質化し、各授業科目の到達目標を実現するため、授業時に事前・事後の課題を明示し、学習指導を行う。
6. シラバス点検及び授業評価を通じて、各授業科目の点検・評価を行い、教育内容・方法の改善に努める。
7. 授業科目ごとに定められた成績評価の方法に基づき、厳格な成績評価が行われているかどうかの点検・評価を行う。
8. ＦＤ・ＳＤ活動を通じ教職員間の共通理解を形成する。
※［現代マネジメント学科］に関する授業科目区分ごとの学修内容と能力開発の目標は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/admissionpolicy/im.html）

（概要）
【学士課程で培う能力と求める学生像】
産業能率大学では、マネジメントに関する知識とスキルを、実践の場で活用することで、社会において活躍できる人材の育成を目指すとともに、自己の将来キャリアを設計し、その達成のために意欲的に困難に立ち向かう力を培います。
上記の能力向上のために、本学では、教養科目を広く学ぶことで政治・経済・文化等の社会の動きを掴み、専門教育として、経営理論科目と実践科目を相互補完的に学ぶことで、実践力（課題発見、分析、実行、評価、振り返り）を修得します。
そのために、入学希望者には、次の資質を求めます。
・情報マネジメント学部で学んだ知識とスキルを実践の場に応用する意欲を有している
・高等学校段階における基礎的な学習内容を理解している
・グローバル化している社会の動きに高い関心を持っている
・自分の将来キャリアを真剣に考え、常に向上心を持っている

・主体的に課題を発見し、他者と協働して取り組むことができる
【入学者選抜の基本方針】
産業能率大学では、求める学生像との適合度をはかるために、多様な入試制度を展開しています。すべての入試に共通するのは、高等学校段階までの学習課程における基礎的な知識を修得していることがあげられます。また、学校行事、部活動等に対し主体的かつ意欲的に取り組んでいることを基本としています。なお、２０２３年度学校推薦型選抜「公募制方式一般推薦」は課外活動や学校行事の活動期間の長短にかかわらず、主体的かつ意欲的に取り組んだ経験を出願要件とし、選抜を実施しました。また、2025 年度入学者選抜においては、入学者受け入れ方針について WEB サイトに加え、オープンキャンパスでのガイダンスや選抜要項を通じて周知を図っています。さらに一般選抜では、旧学習指導要領を履修した志願者にも配慮した出題を行いました。

※［現代マネジメント学科］の入学者の受入れに関する方針は大学のホームページ（上記の URL）に掲載

学部等名　情報マネジメント学部　（現代マネジメント学科〔通信教育課程〕）
教育研究上の目的（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/purpose.html
（概要） ［現代マネジメント学科］ マネジメント力を発揮して社会の様々な分野において活躍する人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/imce.html
（概要） 【学位授与方針】 情報マネジメント学部の教育課程を学修して、学科（通信教育課程）が定める到達目標を達成し、卒業に必要な修得単位の要件を満たす学生に、学士（マネジメント）の学位を授与する。 ※［現代マネジメント学科〔通信教育課程〕］の卒業の認定に関する方針は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/imce.html
（概要） 情報マネジメント学部現代マネジメント学科通信教育課程では、学位授与方針に定める到達目標を達成し、マネジメント力を発揮して社会の様々な分野において活躍する人材を養成するために、次の方針に沿って教育課程を編成し実施する。 1. 学位授与方針の到達目標を達成するため、体系的・順次性のある教育課程を編成する。 2. 学位授与方針の到達目標と関連づけながら、授業科目区分、授業科目、授業方法・形態、授業科目の到達目標及び学修内容を定める。 3. 学位授与方針の到達目標を達成できるよう、卒業に必要な単位について授業科目区分ごとに適切に定める。

4. 学位授与方針の到達目標を達成できるよう、主体的・能動的な学修を促し、学習指導・支援を行う。
5. シラバスを通じて、各授業科目の到達目標、学修内容、学修方法、成績評価の方法などを周知する。
6. シラバス点検及び授業評価を通じて、授業の点検・評価を行い、教育内容・方法の改善に努める。
7. 授業科目ごとに定められた成績評価の方法に基づき、厳格な成績評価が行われているかどうかの点検・評価を行う。
8. ＦＤ・ＳＤ活動を通じ教職員間の共通理解を形成する。※［現代マネジメント学科〔通信教育課程〕］に関する授業科目区分ごとの学修内容と能力開発の目標は大学のホームページ（上記の URL）に掲載。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページによる公表
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/3policies/imce.html

（概要）
産業能率大学は建学の精神のもとに、広く世界に目を向け、他者の意見を尊重し、誠実な人格の形成に努力する人材を育成します。マネジメントの思想と理念をきわめ、修得した知識や知見、理論を自己の枠内にとどめることなく、実践の場に移しうる能力を涵養します。そのために高度な専門知識を基盤とし、課題を発見し、解決する意欲と能力を備え、主体的に行動できる人材を育成します。

情報マネジメント学部現代マネジメント学科通信教育課程は、学ぶ意欲のある、幅広い年齢層、様々な職業の方に、大学での学びの環境を提供することを前提とし、次のような人材を受け入れます。
・マネジメントの知識とスキルを学び、学んだことを実践の場に活用する意欲のある人
・社会の動きに関心を持ち、さまざまな視点から考え、課題を設定して取り組む意欲のある人
・自分のキャリアに対する意識を持ち、生活と仕事のバランスを考えた学習計画を立てられる人
・人の意見を聴くことと、自分の意見を述べることのできる人
・社会や大学のルールを守り、一緒に学ぶ学友等、他の人への気配りをもって行動できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページによる公表
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/bo.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	1 人	－					1 人
経営	－	44 人	17 人	7 人	0 人	0 人	68 人
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ（通信教育課程を含む）	－	24 人	4 人	2 人	0 人	0 人	30 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	307 人	307 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/faculty/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

大学の活動方針のひとつとして、FD の積極的展開を明示しており、全学的な FD 活動を推進するためにテーマ別に具体的な項目を設定して取り組んでいる。FD 実施計画は、学長諮問委員会として設置されている FD 委員会において審議・検討し、学長に答申している。また、定期的に FD 研修会を開催しており、原則として全専任教員が参加している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a-1.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通学課程）

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
経営	480 人	621 人	129.4%	1,920 人	2,452 人	127.7%	0 人	0 人
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	330 人	386 人	117.0%	1,320 人	1,513 人	114.6%	0 人	0 人
合計	810 人	1,007 人	124.3%	3,240 人	3,965 人	122.4%	0 人	0 人

（備考）

a-2.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通信教育課程）

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ通信教育課程	500 人	207 人	41.4%	4,000 人	7,121 人	178.0%	1,000 人	915 人
合計	500 人	207 人	41.4%	4,000 人	7,121 人	178.0%	1,000 人	91.5 人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
経営	560 人 (100%)	3 人 (0.6%)	544 人 (97.1%)	13 人 (2.3%)
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	376 人 (100%)	2 人 (0.5%)	367 人 (97.6%)	7 人 (1.9%)
合計	936 人 (100%)	5 人 (0.5%)	911 人 (97.3%)	20 人 (2.2%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社サイバーエージェント、城南信用金庫、スターツコーポレーション株式会社、スタンレー電気株式会社、綜合警備保障株式会社、つくば銀行株式会社、東洋紡株式会社、日本郵便株式会社、日本赤十字社、株式会社バンダイナムコアミューズメントラボ、ぺんてる株式会社、三井不動産商業マネジメント株式会社、横浜農業協同組合、株式会社良品計画、関東信越国税局、東京都（Ⅰ類Ｂ）

（備考）

c-1.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）（通学課程）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
経営	602 人 (100%)	526 人 (87.4%)	43 人 (7.1%)	26 人 (4.3%)	7 人 (1.2%)
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	409 人 (100%)	359 人 (87.8%)	19 人 (4.6%)	21 人 (5.1%)	10 人 (2.4%)
合計	1011 人 (100%)	885 人 (87.5%)	62 人 (6.1%)	47 人 (4.6%)	17 人 (1.7%)

（備考）

c-2.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）（通信教育課程）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 通信教育課程	2,188 人 (100%)	1,437 人 (65.7%)	464 人 (21.2%)	112 人 (5.1%)	175 人 (8.0%)
合計	2.188 人 (100%)	1.437 人 (65.7%)	464 人 (21.2%)	112 人 (5.1%)	175 人 (8.0%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
＜通学課程＞
すべての授業科目について統一した書式の詳細な授業計画書（シラバス）を作成している。授業計画書（シラバス）は、「授業の概要」にあわせて実務経験のある教員等による授業科目のみ「担当教員の実務経験」と「実務経験に基づく項目」を設けている。また、「この科目の到達目標」などの項目から構成しており、各担当教員に作成の依頼をしている。各担当教員が作成した授業計画書（シラバス）を事務職員や学部の教学委員会等で確認し調整したうえで内容を確定している。複数の担当者で行う授業も、科目主務者を定め、授業計画書（シラバス）に基づいて同一の内容・方法で実施している。

＜通信教育課程＞
【授業計画書（シラバス）の作成過程】
授業計画書（シラバス）は、「授業の目的と概要」「担当教員の実務経験等」「この科目の到達目標」などの項目から構成しており、通信教育教学委員会による授業計画書（シラバス）点検結果および科目別教員ミーティングでの検討結果を反映させ、各担当教員が作成した授業計画書（シラバス）を事務職員が確認したうえで内容を確定している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
＜通学課程＞
成績評価基準として GPA 制度を導入しており、当該制度に基づき履修指導を行っている。入学時からの通算の GPA が 1.5 以上であることを進級・卒業要件としている。学期の GPA が 1.5 未満または修得単位 10 単位以下となった学生に対しては、指定期間に本人及び保証人(保護者等)との面談・指導を行う。

＜通信教育課程＞
成績評価基準として GPA 制度を導入しており、GPA の指標を適切に活用し、成績評価を実施している。また、学生が iNetCampus（在学生ポータルサイト）で成績を確認できる「学修状況連絡表」や「成績証明書」に GPA を表示している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
経営	経営	128 単位	有・無	44 単位
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	128 単位	有・無	44 単位
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	128 単位	有・無	44 単位
	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ（通信教育課程）	124 単位	有・無	44 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/gpa.html			
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：ホームページによる公表 https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/eduability/evaluation.html			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページの各ページ
（付属施設）：https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/index.html
（学生相談室、保健室等）：https://www.sanno.ac.jp/students/life/index.html
（図書館）：https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/library/index.html
（施設）：https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/facility.html
（キャンパス概要）：https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/campus/index.html

公表方法：入学案内（冊子）→大学ホームページから入手可能
＜通学課程＞
https://www.sanno.ac.jp/request.html

〈通信教育課程〉
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/facility.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
経営	経営	818,000 円	250,000 円	360,000 円	施設費（244,000 円）・諸経費（12,000 円）・初年次教材費（4,000 円）・休学中の在籍料（100,000 円（学期あたり 50,000 円））
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ				
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ				
情報ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ（通信教育課程）	現代ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	200,000 円	30,000 円	10,000 円	書類選考料

※初年次教材費 4,000 円は 1 年次のみ徴収する。（23 年度以前はｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ費が該当する）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ＜通学課程＞ 学生の修学に係る支援に関する取組としてアカデミック・アドバイザー制度を整えており、学生一人ひとりの履修状況と成績を把握し、個別面談を行い履修登録時や学期中の助言・指導を行っている。学期末には、成績不振の学生に対して面接指導や保証人を交えての三者面談を行い、安易な留年者や退学者を出さないように対応をしている。これらの面談指導の内容は、アカデミック・アドバイザー指導記録（学生面談記録）に記録して学部長に提出しており、支援状況が共有されている。さらに、学修や成績に関する不安、疑問や悩みの相談を受けた時に支援やアドバイスを行うために「学習支援センター」を設けている。学修支援を充実させるための取り組みとして、学習支援センターに学修支援スタッフの活動である「Shares」を発足させ、自由が丘キャンパス及び湘南キャンパスでは学生が企画・立案して実施する年間の活動を教職員が支援している。 また、令和 6 年度の障害者差別解消法の改正に応じて、学内で合理的配慮を提供するための窓口を各キャンパスに設けている。両教務課、両学生サービスセンター、両保健室および両学生相談室がそれぞれの学部で連携し、個々の学生の障害の状況、特性や教育的ニーズを聞き取り、それに応じて可能な限りの配慮を提供できるように学内調整を行っている。 ＜通信教育課程＞ 新入生に対しては、学習ガイダンスを入学期（４月期と 10 月期）ごとに教職員がチームを組んで実施している。 在学生に対しては、学習を進める上での相談や悩み事には、通信教育事務部の窓口や面接授業の会場で職員や教員が対応するとともに、郵便や電話、Ｅメールなどの通信手段を用いた相談も随時受け付けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ＜通学課程＞ 進路選択に係る支援に関する取組として、自由が丘キャンパス及び湘南キャンパスの両キャリアセンターが中心となり課外の支援も実施している。2 年次後学期から学生一人ひとりに担当職員を配置し、個別相談に適宜対応できる体制を整えている。学生の進路支援を個別にサポートしていく体制は、以後最終的に進路を確定させるまで継続する。 また、自由が丘キャンパス及び湘南キャンパスの両キャリアセンターが企画運営するキャリアガイダンスも各学部の学生に対応しながら実施している。低学年に対しては、大学生活を充実させる必要性と就職活動の概要についての理解を促す内容を実施している。実際の就職活動に臨んでいく 3 年生に対しては、本学卒業生の就職実績がある企業の採用担当者やＯＢ・ＯＧに協力いただき、キャリア教育の観点と就職活動のスキル面の両方を踏まえた情報提供および支援行うガイダンスを実施している。4 年生進級後は主に内定を獲得していない学生を対象とした少人数の内定獲得支援講座および授業科目を展開している。このように就職活動の基本から実践に至る指導と支援を、集団・個人双方に向け、教学と連携しつつ継続して行っている。 ＜通信教育課程＞ 社会人学生の社会的・職業的自立に関する支援として、授業科目「キャリアブランディング」を開設している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
＜通学課程＞
学生の心身の健康等に係る支援を行う取組として、自由が丘・湘南の両キャンパスに保健室と学生相談室を設けている。
保健室には看護師の資格を持つ常勤職員を各キャンパスに１人ずつ配置し、病気や怪我への対応だけではなく、感染症の拡大防止、薬物乱用の防止対応等、学生の健康の保持増進のための各施策や健康教育を実施している。また、毎年、学部通学課程の全学生を対象として学校保健安全法に基づく定期健康診断を実施し、再検査が必要な学生については、必要に応じて校医に相談する等の対策を講じて継続的な支援を行っている。
また、新型コロナウイルスをはじめとした、学内での感染拡大を防止するべき感染症に学生が罹患した場合における学内の連絡体制を整え、感染の拡大を最小限に抑え迅速に対応するための学内連携を強化している。
学生相談室には、両キャンパスともにカウンセラー（非常勤）を置き、学生の個別相談に応じ、メンタルケアに対応している。また、学生相談室内にフリースペースを設け、学内で居場所を見つけられない学生が安心できる場所として利用できる空間の提供、様々なワークショップを展開など、学生相談以外の利用者へのアプローチも行っている。
キャンパスごとの相談窓口を掲載した「学生生活スタートブック」を制作し、新入生のガイダンスにおいて配付することで、大学生活における安全管理の指導に役立てている。

＜通信教育課程＞
学生の健康管理面やメンタル面での支援を行う体制の一貫として、心身に課題を持つ学生が科目修得試験の受験や面接授業を受講する際は、「学習支援申請書」にて事前に通信教育課程に申請するよう指導している。当該申請書の内容を確認し、科目修得試験の受験や面接授業の受講に支障がないよう、配慮している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページによる公表
■教育力向上の取り組み（ＦＤ活動）
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/eduability/index.html
■授業評価制度
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/about/eduability/evaluation.html
■教育開発研究所年報
https://www.sanno.ac.jp/undergraduate/educationallab/kyouikukaihatsu_report.html

○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

＜通学課程＞
［経営学部］
前学期「基礎ゼミⅠ」後学期「基礎ゼミⅡ」を学部共通の必修科目とし、大学での学習への導入的な位置づけ、１年次に学修する必修科目等で得た知識を生かす場を設定している。「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」で学んだ学習成果をもとに、社会人になる４年後を意識させる学習に主眼を置いている。
基礎ゼミⅠ科目では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎

的な力（社会人基礎力）を身につけることを重視する。特に、①前に踏み出す力（実行力）、②考え抜く力（課題発見力・計画力）、③チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を、グループワークを中心とした実践的な学びを通じて向上させていく。
基礎ゼミⅡ科目では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力（社会人基礎力）を身につけることを重視する。①前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）、②考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、③チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を、グループワークを中心とした実践的な学びを通じて向上させていく。

［情報マネジメント学部］
情報マネジメント学部では、前学期「学び方修得ゼミⅠ」の継続科目として、本学での学習を効果的に進めていくために必要な学び方を修得し、大学生として主体的に学ぶために必要な能力や技能を養成することを目的としている「学び方修得ゼミⅡ」を必修科目としている。個人ワークとグループワークを両方行い、レポートの書き方、引用方法、プレゼンテーション技術の個の能力だけでなく、グループワークを進める力（社会人基礎力）をさらに高めていく。
　後学期は「観察によって学ぶ」、「ひとり探究型プロジェクト」という２つのユニットで構成される。
　前半のユニット「観察によって学ぶ」は、グループ活動で実践的な内容に取り組む。提示されたテーマから、情報収集、分析、提案内容の検討、具体策の立案というプロジェクトを実施する。後半のユニット「ひとり探究型プロジェクト」は、時間をかけた個人ワークを行う。自分の興味を持つ分野について取り上げ、新聞等を活用しながらテーマに関する社会状況について調査する。前期に学んできた内容を駆使しながら長文のレポートの作成、プレゼンテーションを行う。なお、これらを通じて適切な文章の書き方、レポートの書き方、引用方法等についても学習する。この 2 つのユニットにおいて、今後の大学生活に必要なスタディ・スキルを身につける事のみならず、ジェネリックスキルの向上も期待される。前学期よりも個々人の積極的な参加意識、チームに対して貢献するという意識が求められる。また、スケジュール管理や自らのタスク管理等も必要になる総合的な能力が求められる。

通学課程では両学部ともこれらの実践的な学びを通じて、課題発見・解決力・未来社会の構想・設計力を身に付ける総合力としてのリベラルアーツ教育の強化がされている。

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310104125
学校名（○○大学 等）	産業能率大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人産業能率大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		409人（ 18）人	391人（ 18）人	502人（ 21）人
内訳	第Ⅰ区分	230人	209人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅱ区分	101人	99人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅲ区分	60人	65人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	18人	18人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ －）人
合計（年間）				506人（ 22）人

（備考）

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	－	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－	人	人
計	12人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	－	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	17人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	43人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	43人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。